

- 10日、アザーロフ首相の露訪問
- 11～13日、ヤヌコーヴィチ大統領の核セキュリティ・サミット参加

A．主な動き

1．内政

▼与党連合をめぐる動き

- ・13日、イヴァネンコBYT議員が与党連合への参加を表明、与党連合加盟議員数は241名に。
- ・16日、エハヌーロフ元首相は、NUNS議員の多数は、共産党の排除を条件に与党連合に参加する方向に傾いていると発言。

▼その他

- ・13日、ユーシチェンコ元大統領の毒殺未遂に関する最高会議臨時委員会は期間満了に伴い活動を終了。
- ・13日、NUNSは、憲法裁判所判事5名の罷免を求める決議案を最高会議に登録。
- ・14日、閣僚会議はチャーリー外務次官を罷免、マイコ駐トルクメニスタン兼アフガニスタン大使を後任に任命。
- ・16日、ヤヌコーヴィチ大統領は国家安全保障国防会議の大統領枠メンバーを発表。アキーモヴァ大統領府第一副長官、ポルトノフ大統領府副長官、ホロシコフスキー国家保安庁長官、シュベク大統領補佐官、ガイドゥツキー大統領補佐官、フェドソフ・キエフ経済大学金融学部長が参加。

2．経済

▼マクロ経済

- ・15日、3月の工業生産高は前年同月比13.8%の上昇。前月比では16.2%の上昇。
- ・16日、国家統計委員会は3月の失業率が1.8%であったと発表。

▼政策

- ・10日、アザーロフ首相は、WTOの原則を満たしていない限り、露、ベラルーシ、カザフスタンによる関税同盟に加わる事は無い、と発言。

▼エネルギー

- ・12日、国家電力規制委員会は化学産業及び鋳業向けの4月の電気料金を7.89-8.32%値上げと発表。

▼金融・財政

- ・10日、アザーロフ首相は、閣僚会議が年金の支給最高額を10000グリブナに制限する計画がある、と発言。また、閣僚会議は最高議会に対して高級品に対する増税、特に高級車に対する輸入税の増税を提案予定であるとも発言。
- ・10日、アザーロフ首相はIMFや世銀が提案している家庭・公共サービス料の100%の値上げについて、不適當であるとの見方を表明。

- ・12日、国家税務当局は12日までに310億グリブナのVAT還付の申し立てが来ていると発言。

- ・13日、大統領府は4月26日までにIMFとの2010年から2011年の協力について合意するつもりであると発表。

- ・13日、アザーロフ首相は、VAT未還付問題解決のため、閣僚会議が7月までにVAT債を発行予定であると発表。VATの未還付額が同債券で支払われる予定。

- ・13日、ストロス・カーンIMF専務理事は、担当レベルでの議論を4月24-25日のIMF・世銀会合の間も継続予定であると発表。

- ・14日、クリューエフ第一副首相は2010年度予算案が5月1日までに採択される自信がある、と発言。露からのガス代が明らかになり次第最高会議に予算案が提出される、とも発言。

- ・15日、ルキアネンコ・アザーロフ首相報道官は閣僚会議は2011年の財政赤字を4.5%に抑える予定であると発表。

▼EURO2012

- ・11日、ヤツバ地域発展相はキエフのスタジアム改築を請け負っているキーフミスクブド(Kyivmiskbud)社が2ヶ月以内に工事の遅れを取り戻さなければ、請負会社の変更もあり得る、と発言。

- ・13日、閣僚会議はEURO2012の準備に関する建設等の調達業務においては入札を実施しないという閣僚会議令を承認。

- ・14日、閣僚会議はEURO2012の準備のために320億グリブナを2010年度予算に計上予定であると決定。

▼農業

- ・12日、農業政策省は冬期に収穫された作物のうち87.4%の状態は良い、又は満足のいく状態であったと発表。

▼ガス問題

- ・10日、アザーロフ首相は、対露ガス価格交渉に関し、ロシアはウクライナ経済の破綻ではなく信頼の置ける安定したパートナーを望んでいると前置きし、ウクライナが年間40億ドル分のガス代金の値下げを目指していると発言。

- ・10日、ナフトガス社は、本部従業員の約40%にあたる大幅な人員削減を予定。

- ・12日、国家統計局は、1～2月の天然ガス輸入量が2009年の同時期比で9.2%減少し、13億8958万4千ドル分と発表。

- ・12日、ナフトガス社の子会社で天然ガスの国内供給を担

当しているガス・ウクライナ社は、昨年10月に開始した暖房シーズンのガス料金を支払うよう公共暖房企業に呼びかるとともに、公共暖房企業の負債額は4月9日の時点で38億グリブナにのぼり、請求額の59%しか支払われていないと発表。

・14日、アザーロフ首相は、対露ガス価格交渉の問題は2010年予算編成にあたり重要事項であり、数週間のうちに解決される見込みと発表。

・14日、クリューエフ第一副首相は、次週始めにも対露ガス価格交渉が終了する見込みであり、交渉は露ガスプロムとナフトガス間で行われているため、ロスウクルエネルギー社の仲介企業は存在しないと発言。

・15日、露ガスプロムは、2010年第2四半期の対ウクライナ・天然ガストランジット料金が1千立方メートル/100キロメートルあたり2.84～2.88ドルとなり、6～10セントの値上げと発表。

・16日、国家統計局は、2010年1～3月の天然ガストランジット量が前年同時期比で57%の増加、また同時期の天然ガス国内生産量は前年同時期比で8%の減少と発表。

・16日、露政府は、露ガスプロムとナフトガス間の価格も含めた合意を承認したと発表。

▼その他

・11日、ヤツバ地域発展相は2010年度建設免許を申請している会社が増加している事、また、住宅市場における需要が増加、住宅価格の安定化を挙げ、建築分野における危機が終わったと発言。

・14日、クリューエフ第一副首相は高濃縮ウランの再処理が露で行われる事になるであろうと、発言。

・15日、チェルノブイリ原子力発電所は、第4号炉を覆う石棺が2013年に完成予定と発表。

3. 外交

▼10日、アザーロフ首相の露訪問

・アザーロフ首相は、プーチン露首相とヴヌコヴォ2空港にて会談。ウクライナ側からはポイコ燃料エネルギー相、ムンチヤン経済次官が参加。

・プーチン露首相は、両国は原子力分野での協力を協議し、ロシア側はフメリニツキー原子力発電所の第3、第4区画工事への50～60億ドル規模の投資を検討していると発言。プーチン露首相は、両国のガス関係にも触れ、アザーロフ首相が「興味深い提案」を行ったため、両国は解決に向け前進するが、アザーロフ首相の提案はさらに協議することが必要と発言。

・アザーロフ首相は、両国が今後もウクライナ側からの提案を検討し協議を続けていくと強調。

▼11～13日、ヤヌコーヴィチ大統領の核セキュリティ・サミット参加

・ヤヌコーヴィチ大統領はワシントンの核セキュリティ・サミットに参加。ウクライナ側からは、グリシチェンコ外相、ポイコ燃料エネルギー相、リョーヴァチキン大統領府長官、ゲルマ

ン及びラードヌィ大統領府副長官も訪米。

・12日、ヤヌコーヴィチ大統領とオバマ米大統領は、ウクライナが高濃縮ウランを2年間で放棄し、米国がそれに対し必要な技術・財政援助を行うと謳うウクライナ・米共同宣言を発表。オバマ米大統領は、ウクライナの決定を「画期的、歴史的な前進」と評価、またウクライナの安全保障が記載されたブタペスト・メモランダムが現在も効力を持つことを確認。米はチェルノブイリ関連プロジェクトへの協力継続を約束。

・12日、ヤヌコーヴィチ大統領は米経済界の代表との会合に於いて、2010年のGDP成長率を3～6%と予測していると発言。

・12日、ヤヌコーヴィチ大統領はワシントンにてIMFと協議。

・13日、ヤヌコーヴィチ大統領は、メドベージェフ露大統領と会談。ガス価格交渉に関し、メドベージェフ露大統領は、ウクライナ側の提案を検討する用意があり、関連省庁で協議を続けていくと発言。ヤヌコーヴィチ大統領は、高濃縮ウランの再処理にあたり、ロシアの支援に対する期待を表明。

・13日、ヤヌコーヴィチ大統領は、メルケル独首相と会談し、国内情勢の安定化及び経済改革の開始を報告。メルケル独首相はヤヌコーヴィチ大統領をベルリンへ招請。

・13日、ヤヌコーヴィチ大統領は、胡錦濤中国主席と会談し、二国間関係を協議。両者は政治対話を強化し、両国首脳、政府、議会及びビジネス関係者の往来を活性化することで合意。

▼14～15日、ライチャーク・スロバキア外相のウクライナ公式訪問

・グリシチェンコ外相は、ライチャーク・スロバキア外相と会談し、スロバキア査証の無料化に関する結果が近日中に出る予定であり、これは両国関係の重要なシグナルであると発表。両外相は、外務省間協力協定に署名。

・グリシチェンコ外相は、ガシユパロヴィチ・スロバキア大統領が7月前半にウクライナを来訪し、経済問題の協議が行われる予定であると発表。

・ライチャーク外相と会談したヤヌコーヴィチ大統領は、ガシユパロヴィチ・スロバキア大統領のウクライナ訪問が二国間関係の重要な一歩となるに違いなく、二国間関係の展望及び計画を協議するつもりであると発言。

▼15日、ウクライナ・ベラルーシ貿易経済協力政府間委員会

・クリューエフ第一副首相は、セマシュコ・ベラルーシ第一副首相と会談し、ウクライナが機械製造、エネルギー、科学産業、貿易、交通及び農業分野でのベラルーシとの協力関係発展に関心があると発言。セマシュコ・ベラルーシ第一副首相は、今般活発化している二国間関係は両国が経済危機から脱しようとしていることの証左であり、2010年第1四半期の二国間貿易は前年同時期比で37%増加していると指摘。

・アザーロフ首相は、二国間の交流が長年続けられ、今般さらに活発化しており、これまでの協力分野でさらに発展していくよう願うと発言。

▼その他

- ・14日、ザディルコBYT議員は、ドナウ川のルーマニア国境に接するウクライナ領のマイカン島の領有権をルーマニアが主張していると発言。ヴォローシン外務省情報政策局長は、一方的な国境線の変更は受け入れることが出来ず、ウクライナがルーマニアとの国境を変更するつもりはないと明言。27日にはエリセーエフ外務次官とマズル・ルーマニア外務長官が本件を協議する予定。
- ・14日、大統領府は、ヤヌコーヴィチ大統領とメドベージェフ露大統領が、4月21日ハリコフで実務協議を行う可能性がある」と発表。
- ・18日、ヤヌコーヴィチ大統領、グリシチェンコ外相、ユーシチェンコ前大統領及びティモシェンコ前首相は、カチンスキ・ポーランド大統領の葬儀に出席。

4 . 防衛

▼黒海艦隊駐留問題

- ・10日、ラヴロフ露外相は、セヴァストポリにおける露黒海艦隊の基地使用料の値上げに関し、ウクライナの希望を考慮する用意があると発言。
- ・13日、関係筋は、本日ウクライナ海軍と露黒海艦隊関係者が指揮所演習「Fairway of Peace 2010」の計画につき議論する予定であると発言。

▼CIS国防相会合

- ・14日、国防省は、モスクワで開催されたCIS国防相会合に

エジェリ国防相がオブザーバー参加したと発表。本会合において、来る対独戦勝65周年記念式典を含む多国間軍事協力に関する20以上の問題を議論。

▼戦勝記念日パレード

- ・12日、タバチニク教育科学相は、ウクライナ軍の代表がモスクワで実施される戦勝記念日パレードに参加する予定であると発言。
- ・12日、最高会議は、グリツェンコ最高会議国家安全保障国防委員長が、ヤヌコーヴィチ大統領に対し、ロシアだけでなくベラルーシ、カザフスタン、グルジア等旧ソビエト連邦諸国にも戦勝記念日パレードの招待状を送ることを提案したと発表。

5 . 二国間関係

▼13日、伊澤大使のアザーロフ首相表敬

- ・GISプロジェクト実現にむけた協力を強化。
- ・アザーロフ首相は、GISの枠組みにおける省エネプログラム実現の必要性を強調。新政権は国際約束を履行し、パートナーのウクライナに対する信用を回復すると発言。2010年予算には実施のための経費が確保され、2010年末には成果が見られるようになると強調。
- ・中小企業の機能、経済・医療・文化及び教育分野の問題に関し協議。
- ・アザーロフ首相はウクライナ・日本センターの建設を完了させるよう関係省庁に指示。

B . その他の動き

4 / 12 (月)

- ・アエロスヴィット社はキエフ・キシナウ間のフライト(週4便)の再開を4月12日から20日に延期。
- ・国家宇宙庁はリモート・センシング向けの小型衛星を11月に打ち上げ予定と発表。

4 / 14 (水)

- ・国防省プレス・サービスは、第59回CIS国防相会合が10月にキエフにおいて開催される予定であると発表。

4 / 16 (金)

- ・「国境なき記者団」は、ヤヌコーヴィチ大統領の就任後、言論の自由をめぐる状況は悪化していると発表。

(了)